



人とともに 地域とともに
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

SHIMANE UNIVERSITY
Faculty of Life and
Environmental Sciences

島根大学

生物学部 生物資源

“いのち”あふれる
地球を育む

生命科学科
農林生産学科
環境共生科学科

2026
学部案内



豊かな自然に接し、 生き物の素晴らしさを 共に学ぼう

島根大学生物資源科学部は、理学と農学を融合した学部として1995年に設置され、本年で30周年を迎えました。本学部は松江市の中心に位置し、湖、山、海といった豊かな自然に囲まれており、フィールドを活かした研究・教育を行える環境が整っております。生物資源科学部では、「生命科学」、「農林生産」、「食料」、「農業経営・経済」、「生態環境」、「生物資源の利活用」、「環境保全・管理」をキーワードとして、人間・社会・自然に関する幅広い教養や理学や農学に関わる基礎的な知識を身に付け、地域や国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、研究・教育を行ってきました。

現在、本学部は「生命科学科」、「農林生産学科」、「環境共生科学科」の3学科と附属生物資源教育研究センター（演習林、農場、臨海実験所）で構成されており、専門知識と技能を講義だけでなく、室内実験、フィールド実習、グループ学習などで幅広く身に付けることができます。また、より高度な研究・教育を希望する学生には大学院進学の間も用意されています。

生物資源科学部では、島根の豊かな自然とフィールドを活かした研究・教育を通じて、地域や世界の発展と持続可能な社会構築を目指す、みなさまをお待ちしております。

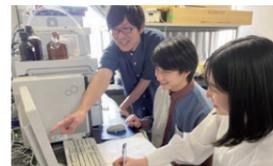


島根大学 生物資源科学部長

上野 誠
UENO Makoto

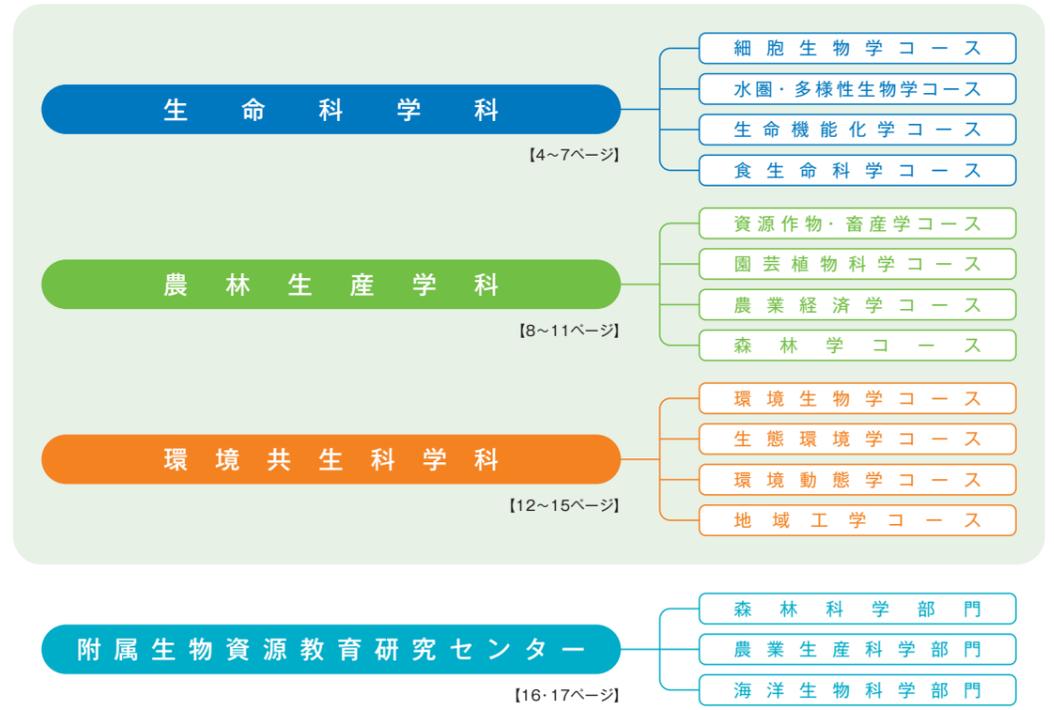
沿革

- 1947年 ● 島根県立農林専門学校設置
- 1949年 ● 新制島根大学設置
- 1965年 ● 島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置
- 1971年 ● 大学院農学研究科を設置
- 1995年 ● 農学部と理学部を改組し、生物資源科学部を設置
- 2000年 ● 大学院生物資源科学研究科を設置
- 2004年 ● 国立大学法人島根大学となる
- 2008年 ● 生物資源科学研究科5専攻体制から3専攻体制に改組
- 2012年 ● 生物資源科学部を5学科体制から4学科体制に改組
- 2018年 ● 生物資源科学部を4学科体制から3学科体制に改組
生物資源科学研究科と総合理工学研究科を改組し、自然科学研究科(博士前期課程)を設置
- 2020年 ● 自然科学研究科(博士後期課程)を設置



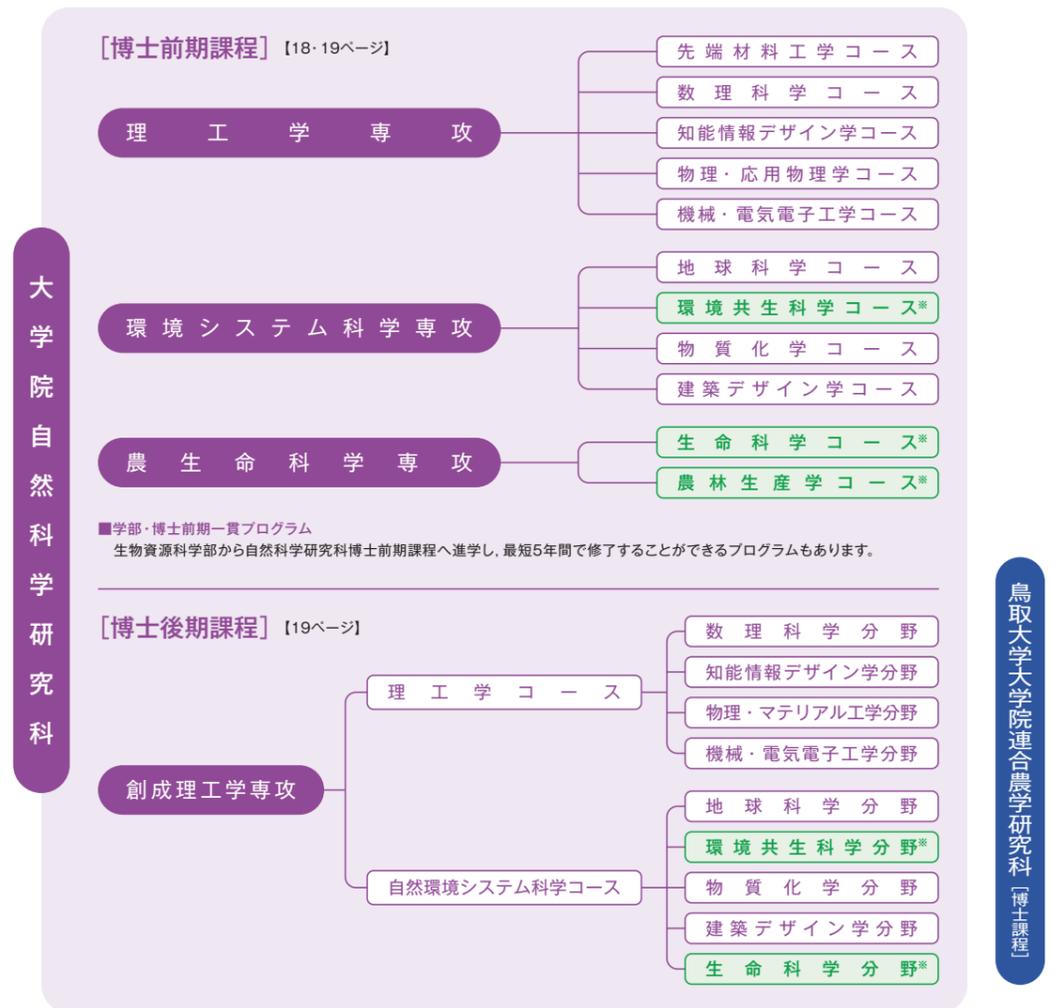
生物資源
科学部の
構成

3つの学科と附属センターで
構成されています



大学院の
構成

専門性を磨くために
大学院への進学も可能です

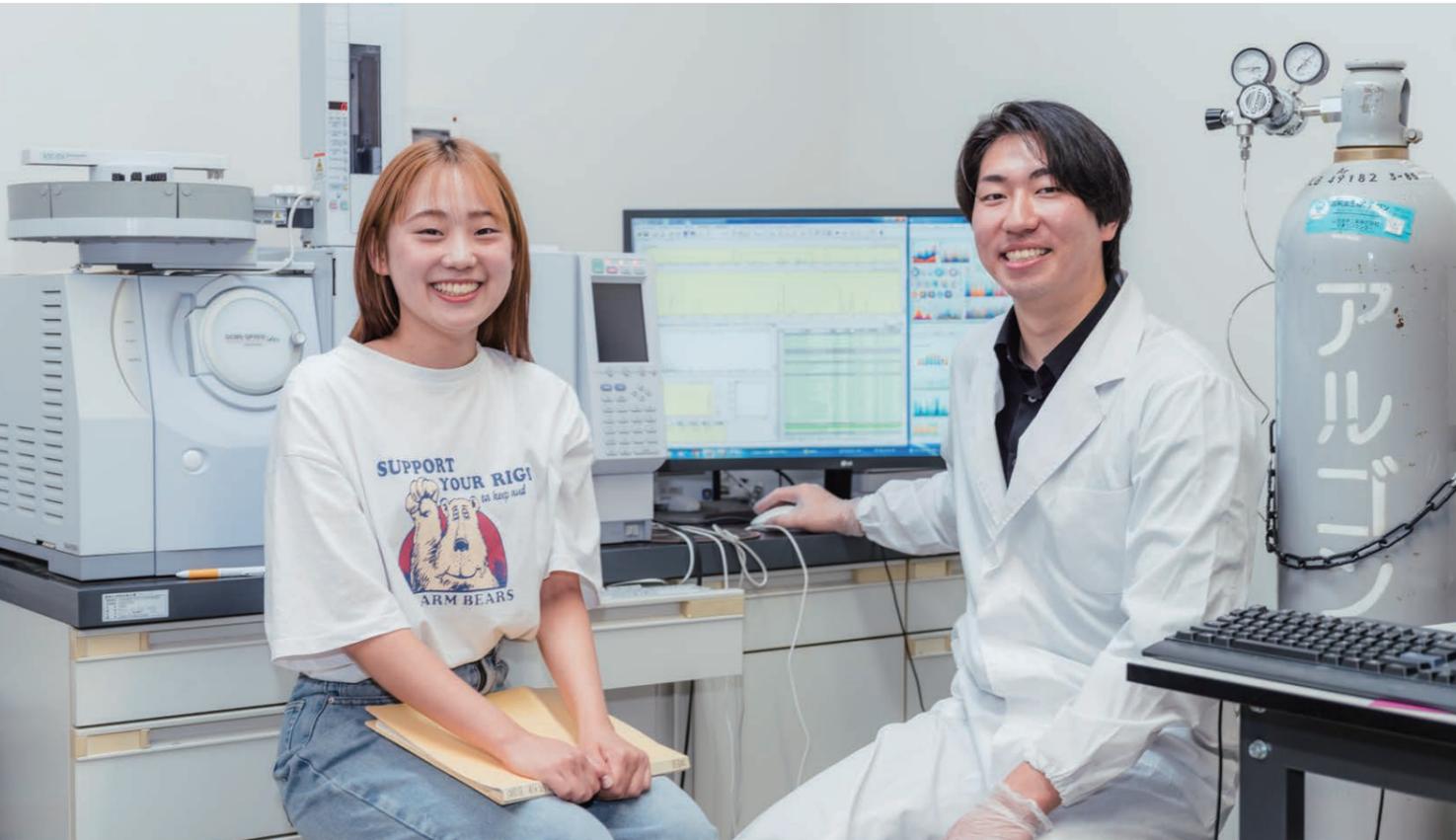


*生物資源科学部の各学科からは、博士前期課程のうち主に環境共生科学コース、生命科学コース、農林生産学コースへの進学となります。続けて博士後期課程へ進学した場合は主に環境共生科学分野と生命科学分野への進学となります。

鳥取大学大学院連合農学研究科「博士課程」

生命科学科

Department of Life Sciences



生命科学科では、微生物から動物・植物に至る多様な生物が示す様々な生命現象についての基本的な理解と根本原理の解明をめざすとともに、これら生物が有する様々な有用機能を食品・化学工業、医薬・農業製造業などの生物・化学産業に役立てるための教育と研究を行います。生命現象の不思議さを追求し応用する過程を通し、論理的思考力、問題解決能力を身に付け、社会で活躍するための資質能力を向上させることができます。

活躍する卒業生



大分県庁
大分県西部振興局
小野 紘平さん
2016年(平成28年)3月 生物科学科卒業
2018年(平成30年)3月 生物資源科学研究科修了

私は大分県職員(農業職)として、農業振興や農村の活性化を目指し、生産技術指導や試験研究に携わっています。これまでに、県オリジナルいちご「ベリーツ」の品種改良や、鳥根・鳥取県など複数機関と連携した共同開発に取り組んできました。現在は、西瓜の栽培指導や、豪雨などの災害に強い産地づくりのために力を入れています。

学部・大学院では、シロイヌナズナを用いた放射性セシウムの吸収メカニズムについて研究を行い、課題を論理的に捉え、探究する力を養いました。こうした経験が、農業現場の課題に向き合い、地域に根差した支援を行う上で大きな基盤となっています。鳥根大学は、豊かな自然に包まれた静かな環境で、自分の可能性と向き合える場所です。学びも日常も、自分のスタイルでとことん追求してみてください。



山崎製パン株式会社
表 拓也さん
2022年(令和4年)3月 生物科学科卒業

私は現在、山崎製パンで人事課として安全衛生の職務を担当しております。職場で働く皆様様が安心して働き、世の中に食糧を安定的に届けることができるよう日々の安全活動や研修等を行っております。大学生の時は、ビタミンCを多く含んだ植物の開発に向けて研究を行っていました。食べ物に興味を持ち、現在も関わることができるのは鳥根大学での学びが大きかったと思います。

卒業後の進路

- 大学院進学(修士・博士課程)
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- 教育・研究機関職員
- 製薬・食品会社
- 環境関連産業
- 動物及び植物などを扱う関連施設
(水族館・動物病院・多機能型牧場など)
- 食品、医薬、化学工業、農林水産業などの技術者、研究者

教育の特色

生命科学科では、生命科学の基礎から応用まで幅広くしっかり学べるように、授業の種類を豊富に用意しています。1年次には基礎科目や生命科学基礎セミナーで基礎学力を涵養し、さらに2年次からは特色のある4つの教育コース「細胞生物学」、「水圏・多様性生物学」、「生命機能化学」、「食生命科学」のうちのいずれかの教育コースを選択することで、より専門的な知識を身に付けることができます。「細胞生物学」と「水圏・多様性生物学」の2コースは連携しており、生物学を基礎とした理学的教育に重点を置いた生物系カリキュラムを提供します。生物系2コースは、附属生物資源教育研究センター海洋生物科学部門(隠岐臨海実験所)と連携しており、実験所の教員の指導のもとで卒業研究を行うこともできます。一方、「生命機能化学」と「食生命科学」の2コースも連携して、生物学と化学を基礎とし、生命の仕組みを食品・化学工業、医薬・農業製造業などの生物・化学産業へと応用可能な農芸化学的教育に重点を置いた生命工学系カリキュラムを提供します。また、生命工学系2コースは、総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と教育・研究で連携しており、センター教員の指導が受けられる学際的卒業研究も行っています。



選べる4つの教育コース

■細胞生物学コース

細胞生物学コースでは、細菌や原生動物から動物・植物まで幅広い分類群を対象とし、それら生物が示す様々な生命現象を分子・細胞・組織・個体レベルで捉え、理解する能力を育み、ライフサイエンスの発展に寄与し、様々な分野で活躍する人材を育成することを目標にしています。生物の分子・生理・発生機構の分析を通して、現象の背後の論理を理解し、「How」に答えるための論理的な思考能力・観察能力・洞察力などを養います。

■水圏・多様性生物学コース

日本海から宍道湖・中海を含む湖沼河川まで多様な水域とその周辺の陸環境がもつ豊かな生物多様性を基礎科学的観点から捉え、理解する能力を育み、生物資源の持続・有効利用と環境保全に寄与し、この分野を牽引する人材を育成することを目標にしています。生物多様性の進化・維持機構及び生態系における多様性の機能を実験・観察・数理的分析を通して理解することで、「How」や「Why」に答えるための論理的な思考能力を養います。

■生命機能化学コース

生命現象は、生命体内に存在する多様な分子の働きが複雑に組合わさることで引き起こされます。そのメカニズムを生物と化学の両方の視点から理解し、有用な機能として医薬系や化学系の分野に応用する知識と技能を有した人材の育成を目指します。生物学、化学及びその融合分野の基盤的・専門的科目を重点的に履修します。

■食生命科学コース

食品に含まれる栄養成分や有用成分を人体が活用する仕組み、食料の生産に寄与する生命の仕組みなど、食に関係する生命現象を理解し、食品やバイオテクノロジーの分野に応用する技能を有した人材の育成を目指します。生物学と化学に関する基盤的科目に加え、食品、栄養、微生物、細胞培養などに関する専門科目を履修します。

カリキュラム

生命科学科では、1年次に自然科学系学部共通科目及び基礎科目を履修した後、2年次からは、生物学を主体とする2コース(細胞生物学コース、水圏・多様性生物学コース)及び生物学と化学を主体とする2コース(生命機能化学コース、食生命科学コース)のいずれかのコースに所属して専門教育を学びます。3年次後期からは各研究室に配属され、卒業研究の実施に向けた活動が始まります。



[履修モデル]	1年次	2年次	3年次	4年次
細胞生物学	全学共通教育科目			
	基礎科目 (生物学、微生物学他)	専門科目 (発生生物学、植物生理学、動物生理学、免疫学、植物分子生物学、形態形成学他)		卒業研究
	基礎セミナー	実験 / セミナー	実験 / セミナー	
水圏・多様性生物学	全学共通教育科目			
	基礎科目 (生物学、化学、動物学他)	専門科目 (水圏・多様性生物学特論、生態学通論、水圏生態学、進化遺伝学、海洋生物学、多様性植物学他)		卒業研究
	基礎セミナー	実験 / セミナー	実験 / セミナー	
生命機能化学	全学共通教育科目			
	基礎科目 (化学、基礎有機化学、物理化学他)	専門科目 (生命機能化学特論、化学生物学、植物光生理化学、生物有機化学、生命分子分光学、分子認識工学、農業生物制御化学、バイオシナジー工学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー	実験 / セミナー	実験 / セミナー	
食生命科学	全学共通教育科目			
	基礎科目 (生物学、植物学、微生物学他)	専門科目 (分子生物学、食生命科学特論、食品微生物学、食品衛生学、食品機能学、食品バイオテクノロジー、細胞工学、遺伝子工学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー	実験 / セミナー	実験 / セミナー	

細胞生物学コース

ミクロな視点から生命現象を科学する

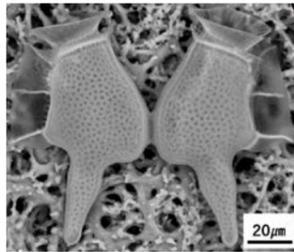
1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して細胞・遺伝子・タンパク質など、ミクロな視点から生物を理解するための実験技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、植物・動物・微生物の分子・生理・発生・細胞機構における研究を行い、ミクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【細胞生命の研究】

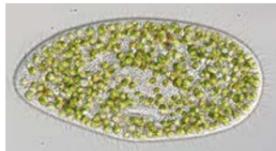
モデル植物における分子の役割、原生動物の細胞運動、細胞内共生の成立機構、脊椎動物の体液調節機構、イネによる土壌浄化など、分子・細胞・組織レベルの生命現象に関する研究を行っています。



生物科学実験の実習風景



渦鞭毛藻類ディノフィンス



ミドリソウリムシ

取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員 ■食の6次産業化プロデューサー

水圏・多様性生物学コース

マクロな視点から生命現象を科学する

1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して行動・生態・進化など、マクロな視点から生物を理解するための実験・野外調査・理論の技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、隠岐諸島や穴道湖をはじめとした山陰の生態系にみられる動植物の進化・生態学的研究を行い、マクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【進化・生態の研究】

動植物の遺伝的分化・系統進化、島嶼生物の保全遺伝、環境DNAを用いた生物モニタリング、頭足類や哺乳類の生殖機構、生物多様性の進化・維持機構の理論分析など、個体から生態系レベルまでの生物現象について進化・生態学的な研究を行っています。



基礎生物学実験の実習風景



博物館実習

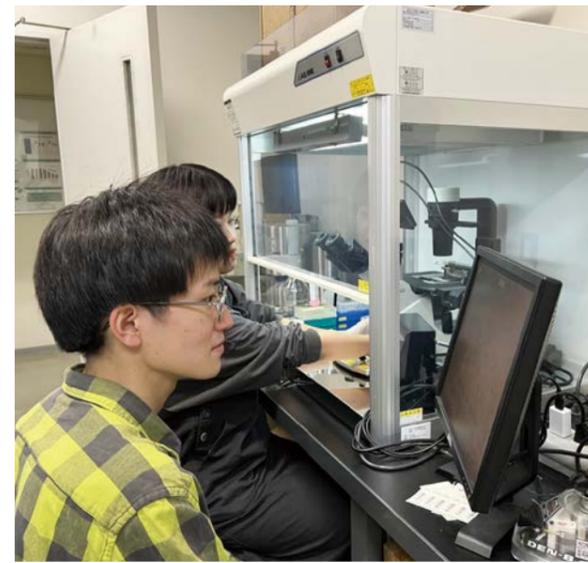
取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員 ■食の6次産業化プロデューサー

生命機能化学コース

分子レベルで生命現象を解明する

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。生物学と化学の融合領域として化学生物学、植物光生理生化学、生物有機化学、農業生物制御化学、分子認識工学などを、また、応用領域として細胞工学、バイオシグナル工学などを履修します。一方で、この間、基礎から専門に至る12種類の実験科目を受講します。3年次後期から研究室に分属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、生体分子に関する分子分光学的研究、分子が互いを識別する原理の解明、脱皮・変態・休眠・相変異などの昆虫内分泌の解明、神経伝達物質受容体に作用する新規リガンドの合成、昆虫幼若ホルモンの作用機構、活性酸素種の代謝、植物におけるビタミンCなど抗酸化物質の合成や生理作用、補酵素の代謝調節機構などの研究が活発に行われています。大学院生はもとより、4年生が学会発表することも珍しくありません。



ユーグレナ



次世代シーケンサー

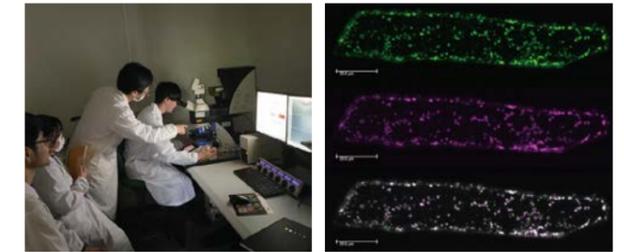
取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ■食品衛生管理者 ■食の6次産業化プロデューサー

食生命科学コース

食に関わる生命現象を解明する

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。食の生命科学に関する基礎領域として、食生命科学特論、食品生化学、食品衛生学、食品微生物学、栄養生命科学などを、また、応用領域として食品バイオテクノロジー、食品機能学、細胞工学、栄養シグナリングなどを履修します。生命機能化学コースと共通の12種類の実験科目を受講します。3年次後期から研究室に分属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、動物培養細胞を用いた生理活性物質の作用機構、脂溶性機能性食品成分の生体利用性、脂肪酸由来生理活性物質の生合成機構、コエンザイムQ10の生合成機構と機能、腸内細菌・乳酸菌の生理機能、酵母のストレス応答と細胞周期、食品機能性成分を増強した植物の開発、穀物の栄養成分の蓄積機構などの研究が行われています。学生が学会で研究発表することもよくあります。



タマネギ細胞のタンパク質の蛍光バイオイメージング実験

取得可能な資格

- 教育職員免許状 (高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ■食品衛生管理者 ■食の6次産業化プロデューサー

農林生産学科

Department of Agricultural and Forest Sciences



農林生産学科は、農林業生産による豊かな人間生活の実現を目指して、農産物及び林産物に関する持続可能な生産技術と経営・経済について教育と研究を行う学科です。資源作物・畜産学、園芸植物科学、農業経済学、森林学の4つの教育コースからなる本学科では、相互に連携したカリキュラムにより農林生産学全般を広く学びつつ、各コースの専門的な知識・技術の修得を図ることができます。自然、生物、食に関して興味がある人を求めています。将来、農林業自営、JAなどの農林業団体の職員、種苗・食品・医薬・環境・機械などの農林関連企業における技術職・営業職、国や地方の公務員、中学・高校の教員などとして活躍されることを期待しています。

卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 国家・地方公務員
- JA、森林組合、林業公社、食品、種苗、飼料、農業、医薬、機械、住宅設備、造園、環境コンサルタントなどの農林関連企業・団体、農林自営業
- 中学・高校教員

活躍する卒業生



広島県立総合技術研究所
林業技術センター
山本 啓さん
2021年(令和3年)3月 農林生産学科卒業
2025年(令和7年)4月 自然科学研究科入学

私は林業職として広島県に採用され、リモートセンシング分野の研究者として研究開発に取り組んでいます。
大学では木の伐採やフィールド調査を行ったりと、実体験を交えながら学ぶことができました。加えてドローン飛行やAI画像解析など現在の業務に活用できる様々な知識・技術も習得でき、有意義な時間を過ごすことができました。



日本甜菜製糖株式会社
永田 清正さん
2023年(令和5年)3月 農林生産学科卒業

私は卒業後、北海道の日本甜菜製糖株式会社に就職しました。
大学ではイネの高温障害について研究をしておりましたが、入社後は甜菜(ビート)とイネとは関係の薄い作物と関わっています。しかし、農業生産学を広く学んだことで土壌の基礎知識や作物を観察する力が身につき、現在も農家指導など業務において役立っています。

教育の特色

豊かな自然環境に恵まれた山陰地域という立地条件を活かしたフィールド学習を含む幅広いカリキュラムを通して、農林業とそれを取り巻く生態系と地域社会について総合的に学びます。さらに、農林生産学を代表する4つの教育コースのうちの1つを選択する2年次からは、先端的研究を行う教員による専門的な講義、実習、卒業研究の指導を通して、深い知識と高い技術を身に付け、農林業、食品、医薬、環境、地域、学術研究などに関わる将来の進路選択に備えます。



選べる4つの教育コース

■資源作物・畜産学コース

人の主なエネルギー供給源となるイネなどの資源作物及び家畜の肉、乳の安定的な供給と持続可能な生産を目的とした理論、技術を修得し、作物・動物の生産に特化した専門的な知識と理解を深め、それらに関する応用力を養うと共に、地域の農畜産物の生産現場に合わせた食料生産の向上を視野に入れた講義、実習、実験を行います。

■園芸植物科学コース

果物、野菜、花などの園芸植物を材料とし、植物資源開発、植物工場、園芸植物利用における専門知識について教育すると共に、地域の自然環境を活かした園芸植物の効率的生産、品質改良、6次産業化などに関するフィールド実習及び研究を網羅した特色ある教育を行うことで園芸生産や利用分野で活躍する技能を有した人材を育成します。

■農業経済学コース

農と食のマーケティング、6次産業化、農家経営、農業の担い手、アグリビジネス、地域活性化、地域資源管理、途上国発展など、食料、農業、農村をめぐる諸事象について総合的に理解し、社会科学の視点から独自に考察・提案できる能力を備え、国内、国外、農村、都市を問わず持続可能な地域社会の創造に貢献できる人材を育成します。

■森林学コース

私達の暮らしに欠かせない森林・林業について教育と研究を行います。森林の育成と保全・計画、林内環境、森林利用のための林業機械、地理情報システム・GPS・ドローン・人工衛星を利用した森林の調査と管理、森林を取り巻く政策・経済、再生可能なエネルギー利用、野生動物管理など、森林を総合的に学ぶことができます。

カリキュラム

農林業に関する広い視野を育む基礎セミナー及び実習から専門的な学びがスタートします。4つの教育コースに分かれる2年次からは、選択したコースの講義や実験・実習・セミナーを主に履修することにより、専門的な知識と技術の修得を目指します。また、各人の興味に合わせて、他コースの多様な講義やフィールド系の実習・セミナーなども履修します。4年次には、修得した知識や技術を活用し、発展させる力を養成する卒業研究に取り組みます。



[履修モデル]	1年次	2年次	3年次	4年次
資源作物・畜産学	全学共通教育科目			
	基盤科目 (資源作物・畜産学概論他)	専門科目 (作物学、家畜栄養学、植物栄養化学、資源作物学、耕地栽培学他)		英語演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験 / 演習	専攻演習 / 専攻実験 / 特別研究	
園芸植物科学	全学共通教育科目			
	基盤科目 (園芸生産学概論他)	専門科目 (果樹園芸学、野菜園芸学、花卉園芸学、植物育種学、6次産業化概論他)		英語演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験 / 演習	専攻実験	
農業経済学	全学共通教育科目			
	基盤科目 (農業原論、経済原論他)	専門科目 (農業経済学、農業経営学、農政学、食と農の地域学、アグリバイオビジネス学他)		卒論演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	セミナー / 演習	卒論演習	
森林学	全学共通教育科目			
	基盤科目 (植物学、統計学他)	専門科目 (森林計画学、森林ジオインフォマティクス、森林利用学、林政学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験 / 演習	実験 / 演習	

資源作物・畜産学コース

農畜産物の生産性向上を通して 人類の食を支える

国内外の農業は、地球温暖化に伴う環境変動、生産者の高齢化、関税の引き下げ・自由化に伴う国際競争といった多様で深刻な問題を抱えています。資源作物・畜産学コースでは、人類の主たるエネルギー供給源となるイネ、ダイズ、サツマイモなどの資源作物やウシやヒツジといった家畜に焦点を当てて、こうした自然・社会環境の変化に起因する農業問題の解決に貢献できる人材を育成します。1、2年次において講義、実験、実習を通して農畜産物の生理・生態的特性や管理技術など、生産に必要とされる専門知識、理論、技術を学んだ上で、3、4年次からは気象、土壌などが収量や品質に及ぼす影響の解析、有用微生物を利用した栽培技術の開発、動物の栄養・生理的な特性の究明、家畜飼料の開発、肉・乳の効率的生産及び品質向上を目指した研究に取り組みます。



取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー

園芸植物科学コース

園芸植物の 高付加価値化の実現

人々が豊かな生活を送る中で、園芸作物に対する色、形、香り、そして食味などの様々なニーズが増加しています。また、消費者の健康や食の安全、地域ブランドに対する関心の高まりもあります。園芸植物科学コースでは、ブドウ、カキ、ダイコン、トマト、サクラ、ツツジといった果物、野菜及び花を主な対象とし、栽培管理・作型、育種・遺伝資源、貯蔵・加工、機能性・特産品開発などについて学びます。1、2年次において講義、実験、実習を通して園芸植物の生理学や遺伝学の基礎的知識をはじめ、育種法や栽培技術に関する専門知識を学びます。3年次からは課題研究に取り組み、栽培試験や品質調査をはじめ、機能性成分分析や遺伝子解析なども行い、園芸植物の品種開発や高付加価値化に向けた栽培・加工技術の改良を目指します。



取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー

農業経済学コース

食と農の現場を解明し問題解決に 貢献する文理融合型の農学

学部の中で唯一、社会科学を広く学ぶことができるコースです。1、2年次には、農業経済学の基礎知識の習得に加え、フィールドワークで農業・農村の現場を体験し、社会調査の基礎を学びます。2、3年次には、食・農業・農村の問題解決に向けた経済学・経営学・政策学・社会学・歴史学などの応用理論を学びます。3年次からは、各自の関心や目的に適った研究室に所属し、教員の指導の下、学生自らが研究テーマを設定し、フィールド調査や文献調査を行い、科学的分析・論考を重ねて、卒業研究にまとめていきます。

基盤科目で自然科学の科目を広く選択できる他、農学に関する科目を専門科目として履修でき、農業関係の職に就きやすいように配慮されています。また、文系・理系両方の分野を学んだことを就職活動の強みにすることもできます。



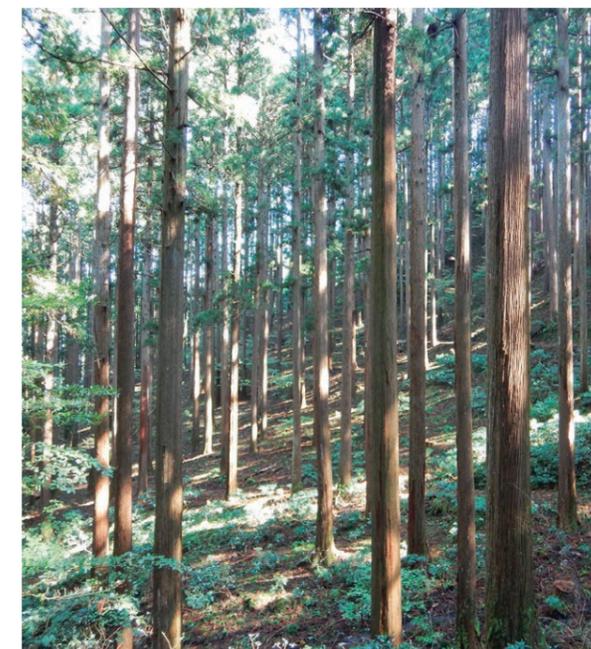
取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー

森林学コース

森林の育成と保全、 林業の発展に貢献する

1年次には大学4年間の基盤となる科目と共に、農林生産学科の入門科目を履修します。2年次になるとコースに所属し、森林学の講義に加え、大学の演習林や地域のフィールドに出て実習を行います。それは3年次になるとより専門化し、一方で、専門と専門を繋いだ応用編としての実習に引き継がれます。同時に、セミナー形式で自らの興味を掘り下げていき、卒業研究のテーマを考え、卒業研究を必修としています。3年次の前期から卒業研究の計画を始め、調査・研究を行い、4年次の秋に中間発表、冬に卒業論文を書き上げ、最後に4年間の成果として発表会を行います。森林学を総合的に学び、自ら卒業研究に取り組むことで、森林・林業関連の公務員、事業者の職員として必要な力を身に付けることができます。



取得可能な資格

- 教育職員免許状
(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 森林情報士(森林GIS部門)
- 食の6次産業化プロデューサー

環境共生科学科

Department of Environmental and Sustainability Sciences



環境共生科学科では、土・水・生物などの資源と環境を適切に保全・管理しつつ持続的に利用していく環境調和型社会の構築や、その実践のために必要となる専門知識や技術に関する科学と工学の両観点からの教育を重視します。学生の皆さんは、2年次から環境生物学・生態環境学・環境動態学・地域工学という、互いに重なり合いつつも特色ある4つの教育コースに配属され、多角的な視点から、地域の持続的な発展に貢献する様々な手法の修得を目指します。就職先には公務員、教員、機械・電機系の会社、IT関連企業、食品関連の会社、建設会社、技術コンサルタント会社、環境コンサルタント会社などがあります。

卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- 環境調査、緑化、水処理、食品、機械、建設、ソフトウェア開発などの各種企業や団体

活躍する卒業生



鳥取県土木整備部
景山 大地さん
2023年(令和5年)3月 環境共生科学科卒業

私は現在、鳥取県職員(土木職)として道路や橋りょうの補修、除雪業務などの発注・監督業務に携わっています。学部では、構造力学の分野について研究し、仲間と切磋琢磨することで柔軟な発想力や論理的思考力を身に付けることができました。自然豊かなこの土地で「学び」と「遊び」を全力で楽しんでください。



株式会社一成
調査課1課
村上 響太さん
2019年(平成31年)3月
地域環境科学科(現環境共生科学科)卒業

私は環境コンサルタントとして、全国の植林地や国立公園を舞台に、調査・計画・保全に関わる業務に従事しています。各工程を一貫して担うこの仕事には、大きな責任と深いやりがいを感じています。大学時代にはホットギスガイの移動特性を研究しており、現在とは異なる分野ながら、培った観察力と分析力は、現場での実務において活かされています。自分の興味に素直に向き合い、挑戦してみてください。

教育の特色

入学後に、まず共通の基礎となる科目を学んだ後、2年次に教育コースを決定します。そして各コースの発展的な科目や応用的な科目へ進んでいき、身近な生物や環境問題を科学的に捉える方法や、実社会で使われている工学を学ぶと共に、問題解決に必要な広い視野と実践的な技術を養います。環境共生科学科の全教員が4つ全てのコースに関わるため、幅広い内容が学べます。



選べる4つの教育コース

■環境生物学コース

中山間地域の森林・里山から農耕地を経て、河川・汽水域に至る広域な環境に生息する生物を対象とします。植物の病気発生機構、昆虫の利用や防除、自然界での微生物の働き、森林の健全な育成と保全などに注目し、その生命現象と多面的な意義について履修します。持続的な農業や生物資源の利活用を目指し、環境と生物、生物と生物の相互作用に関する知識と研究手法を修得します。

■生態環境学コース

ヒトと自然の共存や生態系の保全を目指し、生物が生息する水・土環境で生じる多様な現象とそのメカニズムを科学的視点から理解するための知識と方法について履修します。山・川・湖沼・海を含む流域を対象に、水域では水生生物と生息環境・水質・水文に関して、陸域では森林・草地や農耕地の調査・評価方法を修得します。

■環境動態学コース

地域資源循環型社会の構築を目指し、地域資源を有効かつ持続的に利用するための、また、人間活動と共存できる生態系を保全・修復するための知識と技術を履修します。土、水、大気、生物及び人工物を介した物質の移動や循環をミクロ及びマクロの視点から理解・制御する方法や、水や土環境を保全・修復する工学的手法を修得します。

■地域工学コース

農村地域や中山間地域が有する地域資源を有効に活用して、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造・管理・保全するための専門的な基礎学力と技術を、工学的な観点から修得します。また、科学技術が公衆や環境に及ぼす影響(有用性と危険性)並びに責務といった技術者倫理や、必ずしも解が1つではない課題にアプローチするための考え方についても履修します。

カリキュラム

環境共生科学科では、各学生が2年次に4つの教育コースから1つを選択します。各コースの科目は互いに特色を有しつつも、密接に関わっています。



[履修モデル]	1年次	2年次	3年次	4年次
環境生物学	全学共通教育科目			
	基盤科目	専門科目 (植物病理学概論、環境昆虫学、森林土壌学、農業環境科学、森林生態学、共生微生物学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験 / 実習	専攻実験	
生態環境学	全学共通教育科目			
	基盤科目 (植物学、基礎土壌学他)	専門科目 (水環境保全学、水圏生態学、汽水域生態学、バイオマス利用学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験 / 実習	専攻実験	
環境動態学	全学共通教育科目			
	基盤科目 (水環境学他)	専門科目 (応用数学、環境分析化学、水環境保全学、植物環境工学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験 / 演習	専攻実験	
地域工学	全学共通教育科目			
	基盤科目 (基礎水理学他)	専門科目 (土壌物理学、土質工学、構造力学の基礎、水理学、流域水文学、かんがい排水学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー・実習	実験 / 実習	専攻実験	

豊富な専門講義で幅広く学ぶ

- 水環境保全学 ■水圏生態学 ■汽水域生態学 ■地域計画学
- バイオマス利用学 ■構造力学 ■水理学 ■かんがい排水学 ■農地保全学 ■水利施設工学
- 環境昆虫学 ■共生微生物学 ■植物保護学 ■森林生態学 ■森林土壌学 ■森林水文学



環境生物学コース

自然環境中の多様な生物を科学する

環境生物学コースに所属した学生は、2年次に植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学の専門科目と実験を履修します。3年次になると、1、2年次に学んだ知識と技術を生かして植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学のいずれかに関する研究課題に各個人で取り組み、4年次に卒業研究として成果を発表します。本コースでは、特に3年次以降に、他学科の専門科目を含む極めて多彩な科目の中から各自の興味、将来設計、就職希望などに適した科目を自由に選択できます。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■学芸員 ■樹木医補
- 食の6次産業化プロデューサー

生態環境学コース

人と自然の共存や生態系の保全を目指す

生態環境学コースでは、生物や生態系に関する基礎知識に加え、それらが生息する水圏や土壌圏の特徴について学びます。基礎的な科目として統計学、生態学、水環境学、基礎土壌学などを履修し、続いて水圏生態学、汽水域生態学、植物環境工学といった発展的な内容の科目を履修します。これらに加えて、生態系などに関する調査を行うための基礎的な知識や、豊かな自然を守っていくために必要な技術を修得するため水環境保全学、環境分析化学実験などの科目を履修します。また、4年次に行う卒業研究の準備として、外書講読、生態環境科学実習や専攻実験といった実習や実験が用意されています。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■学芸員
- 食の6次産業化プロデューサー

環境動態学コース

地域資源循環型社会の構築を目指す

豊かな自然環境と快適な人間生活の共存を実現するために、動的に変化していく自然環境や生態系を調べて理解するための知識と、資源を浪費しない地域社会を実現するための技術を学びます。自然界の物質循環を理解するために、環境分析化学、水環境学、基礎水理学、基礎土壌学、土壌物理学、環境分析化学実験などの科目を履修し、また、生態学、水圏生態学などを通して生態系に関する基礎的な知識を得ます。さらに、農地工学、農地保全学、かんがい排水学、バイオマス利用学などを履修することで、地域での快適な生活を実現する技術について学びます。そして地域計画学などで得た知識を基に、自然環境と人間生活のバランスの取り方に関する考え方を修得します。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補
- 食の6次産業化プロデューサー

地域工学コース

地域資源の有効活用を目指す

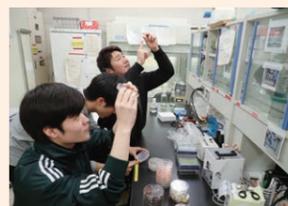
土・水・社会基盤からなる地域資源を整備、維持することで、良好な地域社会を実現するための知識と技術を修得します。良質な農地を実現できる知識を学ぶために、土壌物理学、農地工学、農地保全学、測量学などを履修します。また、水理学、流域水文学、かんがい排水学などの科目を通して、農地へ水を供給するための知識を修得し、土質工学、構造力学、水利施設工学などを学ぶことで、機能的な社会基盤を実現するための知識を得ます。さらには地域計画学、様々な実験・演習の科目によって、各種の実験・実習で知識の定着と技術の修得を図ります。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■測量士補
- 食の6次産業化プロデューサー

教育コースに関係なく進められる4つの研究分野



環境共生科学科の教員は、自然環境と人間生活をより良い形で共存させるために様々な研究を行っています。4つの分野に分かれ、それぞれが特徴的な研究を進めていますが、最終的な目標は同じです。学生は3年次に卒業研究の指導教員を決定し、その教員の指導の下で卒業研究を行い、卒業論文にまとめます。選択している教育コースに関係なく、希望する分野の教員の指導を受けることができます。

【環境生物学分野】 環境生物学分野では、環境と生物、生物と生物の相互作用に注目し、生物の多様な生命現象の解明を通して、生物多様性に支えられた豊かで持続可能な農業や生物資源の利活用を目指しています。植物の病気発生機構と防除、昆虫の生態や利用と防除、自然界での微生物の働きと利用、森林の健全な育成と保全などに関する基礎から応用までの幅広い研究を行っています。

【生態環境工学分野】 生態環境工学分野では、良好な自然の保全や、すでに失われた自然環境を取り戻すための学問である生態工学をベースに、水環境及び土壌環境の保全修復に取り組んでいます。特に水生生物の調査、微生物や吸着剤による水処理、劣化土壌での持続的生産、有機性廃棄物の有効利用、土壌を用いた水処理などの研究を行っています。

【生物環境情報工学分野】 生物環境情報工学分野では、環境と生物の関わりを調べて活用する研究、物質の時空間分布や偏在の情報を収集・予測し環境改善する研究や、生物を構成する物質や個体群のパターンをもたらす因子を明らかにし、その情報を応用する研究を行っています。

【地域環境工学分野】 地域環境工学分野では、自然環境と調和した地域の社会基盤を実現するための研究を行っています。水・土・社会基盤のそれぞれを良好に保つための技術や考え方、水や物質の循環を把握し改善する手法などの開発を目指しています。



附属生物資源教育研究センター

Education and Research Center for Biological Resources



三瓶演習林の人工林ほか

森林、耕地、海は私たちに不可欠な生活資材や食べ物など様々な生物資源のめぐみを与えるとともに、多様な生物環境を形成しており豊かな人間生活をもたらしています。

附属生物資源教育研究センターは、森林科学部門、農業生産科学部門、海洋生物科学部門の3部門で構成されています。それぞれの部門では、演習林、農場、臨海実験所などの地域を生かした施設を活用して特徴的なフィールド教育研究活動を行っています。さらに、水が山から里、海に流れていくように、森林、耕地、海の有機的なつながりを意識しながら教養教育、専門教育、さらには社会教育にも積極的に取り組んでいます。

また、自然科学系のみならず人文社会系の学生も履修できる教養科目として「自然と語ろう」を開講しており、特別副専攻プログラムのフィールド教育プログラムを提供しています。さらに他大学生を対象とした公開実習を開講し大学間の教育・研究の連携交流を進めています。



ドローンを用いた森林上空のCO₂濃度測定



チェーンソー分解組立の実習



三瓶演習林の紅葉



要注意!ギンカクラゲ



タコツボに入って様子を伺うマダコ



農業機械の運転実習

森林科学部門 (三瓶演習林・匹見演習林・松江試験地)

森を訪れ、森を畏れ、 森を学ぶ

島根大学には、島根県内に三瓶演習林(大田市と飯南町)、匹見演習林(益田市)、そして松江試験地(松江市)の3ヶ所の演習林があります。

3ヶ所の演習林は、ツキノワグマとブナ林のみられる落葉広葉樹林の分布する匹見演習林、常緑広葉樹林から落葉広葉樹林への移行帯にあたる三瓶演習林、常緑広葉樹林の分布する松江試験地とそれぞれ特徴のある森林帯に位置します。島根大学における森林に関する教育研究の実践の場として整備された演習林は、農林生産学科や環境共生科学科のカリキュラムの中で多くの実習教育と卒業研究に利用されています。公開森林実習では他大学の学生との交流の機会が得られます。

あなたもぜひ、島根大学演習林で新しい発見を!

《演習林の長期研究課題》

- 気象観測 ● 広葉樹二次林の長期動態 ● 酸性雨の影響
- 樹木の展葉落葉フェノロジー ● 小渓流の流量観測



三瓶演習林露場に日射計を設置する学生たち

農業生産科学部門 (本庄総合農場・神西砂丘農場)

人と環境に やさしい農業とは

農業生産科学部門では、農業の生産性向上のための技術と人や環境との関わりを体験できる実習を行っています。本庄総合農場(15ha)にある水田、畑、ガラスハウスで様々な作物を栽培し、作物の育て方や肥料・農薬の使用量が環境に及ぼす影響を観察しながら農業と環境の関わりについて学びます。毎年約120名の学生が農場実習に参加します。

研究活動はおもに松江市の本庄総合農場と出雲市の神西砂丘農場で行われ、以下のような研究や調査を教員・技術職員・学生が協力して行っています。

- 栽培作物の生産性向上要因の解析 ● 土耕・水耕栽培における生理障害の要因解明
- 新しい作型・栽培技術の開発 ● 土壌中の有機・無機成分のモニタリング
- 地域資源を用いた加工品の開発



田植え実習

海洋生物科学部門 (隠岐臨海実験所)

日本海の アップフロント・隠岐

海洋生物科学部門は、学外教育研究施設として隠岐の島に3隻の実習船を備えた臨海実験所が設置されています。実験所の利用は全国に開放されており、公開実習など多くの大学生・研究者が全国各地から訪れます。

実験所で行う臨海実習では、海洋生物と環境に直接触れることにより、生物多様性の意味、生物の環境への巧妙な適応戦略、生物と人間生活との関連性を学ぶことができます。海洋で採れる新鮮な実験材料を利用して、海洋の生物多様性、および海産無脊椎動物の生理・発生を体験できます。

また、隠岐の島は日本海西部の流れる対馬海流の最上流域にあたり、地球温暖化に伴う日本海の生物相の変化を観測するのに適した場所です。本来は生息していなかったヒョウモンダコやヒメカムリヒトデなど南方系の海洋生物が定着していることが確認され、環境変動を日々感じています。また、大気・海洋を通じて流れ込む汚染物質や海洋ゴミなど、人工的な環境変動の影響が顕著に見られる場所でもあります。日本海をモデルに、環境変動を観測する研究プロジェクトについて、日本海側に面した諸大学と共に環境教育についても展開していきます。



シュノーケリング練習

大学院自然科学研究科

Graduate School of Natural Science and Technology

大学院の詳細はこちらでチェック!



COURSE 博士前期課程

自然科学研究科（博士前期課程）は、総合理工学研究科と生物資源科学研究科を融合した平成30年度設置の研究科です。両研究科を統合し、3つの新しい専攻を設置しています。本研究科では確かな専門知識や技術、超スマート社会で主体的な役割を担うための情報技術力、外国語によるコミュニケーション力とグローバルな感性、そして柔軟な発想力を養います。それにより、科学・技術の発展と持続可能な社会の実現に俯瞰的・総合的視点から寄与できる創造性豊かな高度技術者・研究者及びグローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材を養成します。生物資源科学部の各学科からは、主に環境システム科学専攻（環境共生科学コース）、農生命科学専攻（生命科学コース、農林生産学コース）への進学となります。

生物資源科学部からは主に2つの専攻（環境システム科学専攻・農生命科学専攻）へ進学

環境システム科学専攻

環境と調和した社会への貢献



環境システム科学専攻には、地球科学コース、環境共生科学コース、物質化学コース、建築デザイン学コースが設置されています。本専攻では、地球科学、環境共生科学、化学、建築学の基礎知識を身に付け、その知識を基に、環境と調和したより豊かな社会の構築に貢献する、実践力と創造力を備えた国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

農生命科学専攻

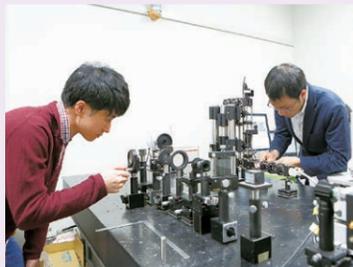
生命科学と農学の発展に貢献



農生命科学専攻には、生命科学コース、農林生産学コースが設置されています。本専攻では、生命機能を科学する能力を備え、農林生産物を活用するための高度な専門知識・技術・課題解決能力を有し、かつ国際感覚に優れた自立的人間性豊かな高度技術者・研究者を養成します。

理工学専攻

科学技術や社会の創造に貢献



理工学専攻には、先端材料工学コース、数理科学コース、知能情報デザイン学コース、物理・応用物理学コース、機械・電気電子工学コースが設置されています。本専攻では、数理、物理、情報の基礎知識を身に付け、その知識を基に、数理科学、物理学、情報科学、機械工学、電気電子工学、材料工学の発展に寄与し、新たな科学技術や社会の創造に貢献できる国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

教育の特色・カリキュラム

自然科学研究科では、研究科共通科目という科目群を新たに設け、その中に、研究科内の各専攻の内容を俯瞰できる概論的科目、英語科目、数理・情報・生物学の基礎を学ぶ科目、研究者・技術者としての教養を身に付ける科目、そして実践的な課題解決能力やグローバルな視野を養成する海外インターンシップ科目などがあります。これにより、理工学、環境システム科学、農生命科学を総合的に学ぶことができ、自然科学系の幅広い教養教育が可能です。学部から大学院を含めた5年間又は6年間の一貫プログラムも設置し、優秀な学生は、5年間で学部・大学院を修了できる道も拓かれます。

大学院進学の特長

▶ 研究職、技術職に就きやすくなる

いずれの学科においても研究職への就職率が顕著に高くなる。生命科学科と農林生産学学科においては技術職への就職率も増加する。

▶ 自分がやり始めた研究が継続でき、追求できる

卒業研究で始めた研究テーマを継続・発展させ、研究成果を自らの力で上げる機会が得られる。それを学会などで発表し、研究の楽しさを味わうことができる。

▶ 自分の将来を考える時間が持てる

学部生時代に単位取得・サークル活動・アルバイトなどで多忙な日々を送っている、将来自分が本当にやりたい仕事については十分に考えられなかった人は、大学院で自身自身に向き合うことができる。

就職時の職種比較
(令和6年度)



学部卒業生

生命科学科 農林生産学学科 環境共生科学科



大学院自然科学研究科修士課程

農生命科学専攻 (生命科学科と農林生産学学科から進学) 環境システム科学専攻 (環境共生科学科から進学)

研究職

6%

1%

4%

25%

26%

技術職

11%

29%

31%

23%

47%

※環境システム科学専攻には、総合理工学部物理マテリアル工学科、地球科学科、建築デザイン学科の卒業生も含む。 ※それぞれの主な就職先は、「進路」(26ページ)に掲載。

COURSE 博士後期課程

自然科学研究科（博士後期課程）は、科学技術イノベーションを担う博士人材と広範な理系分野の博士人材を養成するために令和2年度に設置されました。博士後期課程では、「生物」と「非生物」の枠にとらわれない、広い視野を持って新たな分野を切り拓いていける人材を育成するために「創成理工学専攻」の1専攻体制とし、研究科内の各研究分野間に融合教育を推進しています。また、地域社会からのニーズに応える形で整備した博士前期課程における教育研究体制との連続性をもたせるため、創成理工学専攻の教育研究の柱となる領域を「理工学」と「自然環境システム科学」の2つとし、それに対応させて、「理工学コース」と「自然環境システム科学コース」を設置しています。

研究に挑戦する在学生



自然科学研究科
博士後期課程創成理工学専攻3年
門田 宏太さん
2023年(令和5年)3月 博士前期課程修了

みなさんは、「博士後期課程の学生はどんなことをしているのだろう?」と興味を持ったことがあるかもしれません。私自身も学部生の頃、同じような疑問を抱いていました。私が博士後期課程に進んでわかったことは、普段は研究に取り組むのが中心ですが、それ以外にも自分の裁量で自由に使える時間が意外と多く、さまざまな挑戦ができる期間でもあるということです。その一つの例が、海外の研究室への留学です。私は留学支援プログラムに採択され、博士後期課程1年の冬に、ドイツにあるベルリン自由大学のThomas Schmülling教授の研究室に1か月間留学しました。Thomas Schmülling教授は、植物ホルモンのサイトカイニン研究の世界的権威であり、私にとって憧れの研究者でした。短期間ながら直接指導を受けながら研究に取り組み、学びの多い充実した時間を過ごすことができました。また、海外で生活するという貴重な経験もできました。このように、博士後期課程では、これまでにない新しいチャレンジができる機会が数多くあります。私は、この期間が「人生の中で最も自由に、そして思いきった挑戦ができる最後の時間」なのではないかと感じています。最近では、博士後期課程の学生を支援する制度も充実してきています。もしみなさんが、研究を「おもしろい」と感じたなら、ぜひ博士後期課程への進学も選択肢の一つとして考えてみてください。

活躍する修了生



味の素AGF
濱田 珠未さん
2025年(令和7年)3月 修了

在学中は植物の研究に取り組み、現在は食品メーカーの技術職として働いています。大学院では専門性を高めるだけでなく、継続力や物事を多角的に捉える力など、社会に出てからも求められるスキルを習得できます。私自身、大学院での研究生活を通じて計画力や発想力を大きく伸ばすことができ、その力を活かして現在の仕事に取り組んでいます。また、学会発表などを通じてさまざまな人や考え方に会えたことは、私にとって良い刺激となりました。探究心のある方、将来の選択肢を広げたい方、自分と向き合う時間を持ちたい方、不得意を得意に、そして得意をさらに伸ばしたい方にとって、大学院進学は貴重な経験になるはずです。

科学する技を磨こう!



「知りたい!」が「できた!」に変わる場所

生命科学に興味がある高校生みなさん、生物資源科学部生命科学科・生命機能化学、食生命科学コースでは、微生物・動物・植物など多彩な研究室がそろっているため、興味に合わせて楽しく学べる環境があります!本コースの魅力は、2年生前期から始まる学生実験です!学生実験では、微生物や動物、植物を用いて、研究に必要な基礎技術を1年半しっかり学ぶことができます。実験は班で協力して取り組むものも多く、班員と一緒に試行錯誤しながら行うため、同期との絆が深まります!また実験では、先生だけでなく研究室の先輩たちからも手厚い指導を受けられます。そして、教授との距離も近く、学生1人1人に寄り添った指導が自慢です。研究や実験を通じて成長する喜びと仲間との絆がここにはあります!学生一人ひとりに寄り添う温かい指導のもと、あなたの「知りたい!」をことごとく追求できる環境です!ぜひ!生命科学科で、みなさんの好奇心を未来へつなげてみませんか?みなさんのご入学を待っています!

生命科学科 生命機能化学コース 3年生 加地 彩乃さん

01



自然の中に飛び込んで、「生きた学び」を手に入れる

島根大学での学びは、教室だけにとどまりません。私が特に心に残っているのは、2年次に訪れた隠岐の島での臨海実習です。潮風を感じながら、海辺を歩き、岩陰の小さな生き物に目を凝らす。そんな時間の中で、「生き物と向き合う」ということの本当の意味を知った気がします。実習では、教科書でしか見たことがなかった実験を自分の手でを行い、海洋生物の多様さと生命の不思議さを肌で感じました。自然に囲まれた環境で学ぶからこそ、生物の命の営みを“実感”として捉えられる。知識だけでは得られない、深い理解がそこにはありました。島根大学生物資源科学部では、こうした体験型の学びを通じて、自然とともに思考し、発見し、未来を描いていきます。教室の外に広がる壮大なフィールドが、あなたの学びの舞台になります。ぜひ一緒に、一歩外へ出て、“知る”を超えた“感じる”学びを体験してみませんか?



生命科学科 細胞生物学コース 4年生 安部 忠則さん

MESSAGE 02

歩き続けた先に、島大がありました

森林学を学ぶ。今、このようにして森林と向かい合っている姿を2年前の私は、想像できなかったことでしょう。これまでの2年間、とある大学で法学を学んでいた私は、今年の4月に、編入生という形で、この生物資源科学部の門を叩きました。

私が学ぶ森林学コースは、「森林・林業」という大きなテーマを相手とし、その課題に様々な角度からアプローチを試みます。私たちは、このテーマについて、学問的に、学術的に、体全体で学び、知見を深めています。国土の67%が森林によって覆われている我が国において、「森林・林業」に係る課題は、大きな意味を持ちます。例えば、林業従事者の不足や放置された森林の拡大は、目にみえる課題と言えます。昨日発表された「森林・林業白書」によれば、令和5年度の木材自給率は43%であり、上昇傾向にあるものの決して高い数値とは言えません。どのようにして日本の「森林・林業」を守っていくのか、最前線で学ぶことには、大きな意義があると思います。

しかしながら、私の編入先が「なぜ森林学だったのか」について、答えるには日が浅すぎます。これまでの人生で訪れた、それなりの数の選択肢を「どちらの方が楽しいか」で選んできた私から伝えたいことは、「楽しくないことをやっている時間なんて1秒もない」ということでしょうか。皆さんと、島根の地でご縁が結べることを願っております。

農林生産学科 森林学コース 3年生 川原田 希さん



MESSAGE 03

多くを学び、自分の「したい」を見つけよう

生物資源科学部農林生産学科では1年次に資源作物・畜産学、園芸植物科学、農業経済学、森林学という4つのコースの大まかな内容を学び、2年次から自分の学びたいと思ったコースを選び専門的な内容を学ぶことができます。そして3年次にそれぞれの研究室配属が決まり、本格的な研究が始まります。私が所属している資源作物・畜産学コースでは人の主なエネルギーとなるイネなどの資源作物及び肉類の安定的な供給と持続可能な生産を目的とした研究を行い地域に合わせた食糧生産の向上を目指しています。

現在、私は畜産学研究室に所属し牛等の代替品として昆虫食に関する研究をしているのですが、大学入学前は植物育種に関する研究をしようと考えていました。1、2年次に多種多様な内容を学び知識を得た結果、自分が一番研究してみたいと思ったことに出会えたのです。

生物、そして農業に興味があるけれどまだ具体的にやりたい事が決まっていないう方へ、すぐ将来を決めるのは難しい事だと思います。ですが、本学科にある4つのコースの中に自分の興味があるものがきっと見つかると思います。

農林生産学科 資源作物・畜産学コース 4年生 井上 乃奈さん



MESSAGE 04



島根県という豊かなフィールドでの学び

私は、森林などの自然環境への理解を深めたいと考え、環境共生科学科を選びました。本学科では、昆虫や植物などの生物の研究、森林や汽水域などの環境の研究、ダムなど人間生活を支える施設に関する研究など、自然と人間生活の共生のための幅広い研究・講義が行われています。特に私が関心を持っているのは森林の分野ですが、森林についても樹木や生態、土壌、水循環、保全方法など様々な講義を通して多角的な視点から学ぶことができました。島根県は自然が豊かであるため、講義や実習に加えて、日常生活の中でも学びを実感する機会が多く、理解を深めることができました。また、本学科には4つの教育コースがありますが、それぞれが独立しているのではなく互いに密接に関わっており、基本的にコースに関係なく希望する研究室に所属できます。自分の興味に応じて様々な選択をして学びを深められる環境です。現在の時点で研究したい分野が定まっている方もそうでない方も自然豊かな島根で、共に学んでいきませんか?

環境共生科学科 生態環境学コース 3年生 児玉 海さん

05



知的好奇心を掻き立てる充実した学習環境

環境共生科学科では1年次に基礎となる科目を学んだ後、2年次に4つの教育コースからコース選択をします。その教育コースのひとつ、私の所属する地域工学コースの魅力をお話します。

地域工学コースの魅力は工学的な視点から自然環境を楽しみながら学習できる点です。実験やフィールドワークが充実していて、座学だけでは得られない体験ができます。学習には物理の知識が必要になりますが、先生方の丁寧な授業と質問対応のおかげで、高校で生物・化学選択だった私でも学習を進められています。

また、将来の選択肢が広がるカリキュラムが整っている点も魅力です。国家資格である測量士補の資格をはじめ、様々な資格が取得可能です。また、土木分野における公務員試験の専門試験で必要になる科目のほとんどをコースの必修科目でカバーできます。専門性を突き詰めながら、将来の選択肢を広げることができる点が地域工学コースの魅力であると感じます。

生物資源科学部には皆さんの学びたいという想いを後押ししてくれる環境があります。是非、私たちと一緒に生物資源科学部で充実した大学生活を送りましょう。

環境共生科学科 地域工学コース 4年生 石川 翔太郎さん

MESSAGE 06

科学の謎を追求する！

01 生命科学科 | 植物細胞生物学



生命科学科
細胞生物学コース
秋廣 高志 助教

AI×植物標本で挑む！ 植物の名前を判定するシステムの構築

植物の種類を調べるために使われる「植物標本」には、名前が間違っているものが少なくありません。こうした誤りをそのままにしておくと、研究や環境調査に悪影響を及ぼす可能性があります。私は人工知能(AI)を使って、標本写真から植物の種類を自動で判別するシステムを開発しています。日本に自生する約2000種の植物、50万枚以上の標本画像を学習させたところ、96%という高い精度で正しい名前を判別できるようになりました。特にシダ植物では98%以上の精度を記録しています。この技術は、世界中の標本に活用可能で、生物多様性や環境問題の解決にも貢献できると期待されています。



▶ http://tayousei.life.shimane-u.ac.jp/ai/index_all.php

02 農林生産学科 | 植物育種学



農林生産学科
園芸植物科学コース
中務 明 准教授

花の魅力 幅広い色や形を生み出すには

野生の植物と比較して、私たちの身の回りにある園芸品種の花は幅広い色や形を持っています。その理由は、自然あるいは人為的な交配・突然変異によって生み出されたものを人が選び出して、その優良個体を現在まで残しているからです。従来、観察を中心として魅力的な個体を選ばれてきましたが、現在では特徴的な色や形を生み出す遺伝子(DNA)を直接調べることが可能となりました。私はツツジを主な植物材料として、花弁におけるアントシアニン色素着色に関する研究を行っています。アントシアニン色素を作る能力についてDNA情報を解析することで、花が咲く前にどのような花色になるか予想して、新たな品種を作出することを目指しています。例えば花弁の青色を濃くするには、青色色素を多く蓄積させる遺伝子に加えて、青色を強くする別の色素を作る遺伝子を同時に働かせることが重要です。今後はクロロフィル色素による緑色やカロチノイド色素による黄色についての花色研究にも挑戦したいと考えています。



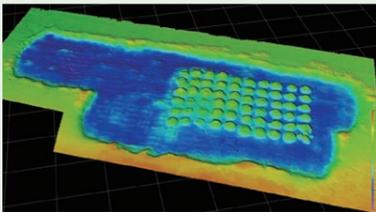
03 環境共生科学科 | 水圏生態工学



環境共生科学科
生態環境工学分野
桑原 智之 教授

人工改変された湖底環境の 効果的な修復方法の確立に向けて

中海では埋立地造成のため沿岸湖底から土砂が採取され、現在も広大な面積の深掘り跡(いわゆる浚渫窪地)が存在します。汽水湖である中海では、水深の深い浚渫窪地には密度の大きい高塩分水が滞留するため、初夏から晩秋にわたり貧酸素状態が継続し、湖底から窒素やリン、硫化水素が溶出します。浚渫窪地の堆積速度は中海の自然湖底の約10倍速いため、内部負荷対策として一定の厚さで覆砂を行った場合、覆砂材は2~3年で堆積物に覆われることがわかりました。覆砂材上の堆積物が蓄積しにくい覆砂形状を検討するため、中海自然再生協議会の実施事業として、2019年に円錐型覆砂60個を浚渫窪地に施工して効果の持続性に関する調査を開始しました。その結果、山頂では5年以上にわたって堆積物の蓄積や内部負荷を抑制し、自然湖底よりも多くの底生生物が出現しました。現在、底生生物の生息により適した覆砂形状について検討を進めており、浚渫窪地の効果的な修復により中海の環境改善に貢献したいと考えています。



教員紹介

生命科学科

- 赤間 一仁 教授 (植物分子生物学)
- 荒西 太士 教授 (遺伝生態学)
- 石川 孝博 教授 (応用生物化学)
- 児玉 有紀 教授 (共生生物学)
- 塩月 孝博 教授 (生物制御化学)
- 清水 英寿 教授 (栄養・病態生理学)
- 高原 輝彦 教授 (動物生理生態学)
- 広橋 教貴 教授 (発生生物学)
- 松尾 安浩 教授 (微生物機能学)

- 丸田 隆典 教授 (植物生理生化学)
- 室田佳恵子 教授 (食品代謝機能学)
- 山本 達之 教授 (生命分子分光学)
- 吉清 恵介 教授 (分子認識工学)
- 池田 泉 准教授 (生命有機化学)
- 石田 秀樹 准教授 (原生生物学)
- 小川 貴央 准教授 (植物分子生理学)
- 戒能 智宏 准教授 (応用微生物学)
- 地阪 光生 准教授 (食品機能学)

- 西村 浩二 准教授 (植物分子細胞工学)
- ヌータラバティ・ヘマンズ 准教授 (生命分子分光学・生命分析化学)
- 古水 千尋 准教授 (植物分子遺伝学)
- 舞木 昭彦 准教授 (理論生態学)
- 秋廣 高志 助教 (植物細胞生物学)
- 大沼 耕平 助教 (発生生物学)
- 須貝 杏子 助教 (島嶼生物学)
- 山口 陽子 助教 (動物生理学・比較内分泌学)

農林生産学科

- 一戸 俊義 教授 (動物生産学)
- 江角 智也 教授 (園芸生理機能学)
- 小林 伸雄 教授 (園芸育種学・花き園芸学)
- 松本 敏一 教授 (果樹園芸学・園芸利用学)
- 吉村 哲彦 教授 (森林利用学・森林情報学)
- 池浦 博美 准教授 (園芸植物利用学)
- 氏家 和広 准教授 (作物生理学)
- 門脇 正行 准教授 (作物学)

- 小林 和広 准教授 (作物生産学)
- 高橋絵里奈 准教授 (森林計画学)
- 田中 秀幸 准教授 (施設園芸学)
- 中務 明 准教授 (園芸分子育種学)
- 中間由紀子 准教授 (農政学)
- 森 佳子 准教授 (農業経営学)
- 保永 展利 准教授 (地域経済学)
- 米 康充 准教授 (森林リモートセンシング学)

- 足立 文彦 助教 (作物生産学)
- 加古 哲也 助教 (観賞園芸学・植物育種学)
- 城 惣吉 助教 (土壌微生物学)
- 末永 千絵 助教 (農業市場学)
- 宋 相憲 助教 (動物生理学)
- ロサリア・ナタリア・セレキー 助教 (アグリバイオビジネス学)

環境共生科学科

- 石井 将幸 教授 (地域基盤工学)
- 上野 誠 教授 (植物病理学)
- 木原 淳一 教授 (植物病理学)
- 桑原 智之 教授 (水圏生態工学)
- 武田 育郎 教授 (水利環境工学)
- 宮永 龍一 教授 (昆虫生態学)
- 谷野 章 教授 (生物環境工学)
- 山口 啓子 教授 (水圏生態学)
- 泉 洋平 准教授 (害虫管理学)

- 上野 和広 准教授 (水循環設計工学)
- 久保満佐子 准教授 (森林生態学)
- 倉田 健悟 准教授 (汽水域生態学)
- 佐藤 邦明 准教授 (土壌園生生態学)
- 佐藤 裕和 准教授 (河川工学)
- 巢山 弘介 准教授 (土壌微生物学・農業環境科学)
- 長門 豪 准教授 (環境動態学)
- 橋本 哲 准教授 (森林水文学)
- 劉 佳啓 准教授 (環境物理学)

- 木原 康孝 講師 (農地環境工学)
- 佐藤 真理 助教 (地盤材料工学)
- 清水 加耶 助教 (昆虫生態学)
- 林 昌平 助教 (微生物生態学)
- 深田耕太郎 助教 (土壌環境工学)
- 藤巻 玲路 助教 (森林生態学)
- 李 治 助教 (生物環境情報工学)

附属生物資源教育研究センター

- [森林科学部門]
- 山下 多聞 准教授 (森林環境学)
- [農業生産科学部門]
- 松本 真悟 教授 (土壌学・作物栄養学)

- [海洋生物科学部門]
- 吉田 真明 教授 (進化ゲノム生物学)
- 小野 廣記 助教 (進化発生学)

先鋭研究部門

- 児玉基一郎 特任教授 (発酵微生物学・植物病理学)

■学科別・日程別募集人員

学 科 名	募 集 人 員							合 計	帰 国 生 抜	私費外国人 留学生選抜
	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」							
	前 期 日 程	後 期 日 程	一 般 型	特 定 型						
			地 域 志 向 (島根県・鳥取県枠)	地 域 志 向 (全国枠)	専 門 高 校	グ ロー ブ ル 英 語				
生 命 学 科 科	37	5	22					70	若 干 名	若 干 名
農 林 生 産 学 科	31	5	15	9	3	5	3	60	若 干 名	若 干 名
環 境 共 生 学 科 科	33	9	16			7		70	若 干 名	若 干 名
計	101	19	53	9	3	12	3	200	若 干 名	若 干 名

※1. いずれも、詳細は入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
 ※2. へるん入試特定型の地域志向(島根県・鳥取県枠)、地域志向(全国枠)及びグローバル英語は、学部全体での募集人員です。

■入試方法

区 分	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」				帰 国 生 抜	私費外国人 留学生選抜
	前 期 日 程	後 期 日 程	一 般 型	特 定 型				
				地 域 志 向 (島根県・鳥取県枠)	地 域 志 向 (全国枠)	専 門 高 校		
試 験 内 容	大学入学 共通テスト + 個別学力試験	大学入学 共通テスト + 面接	【第1次選考】 出願書類による選考 【第2次選考】 読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 地域志向レポートに基づく「地域志向面接」 + 出願書類	読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 地域志向レポートに基づく「地域志向面接」 + 出願書類	読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 専門教科の評定及び専門教科に関連する資格・検定 + 出願書類	読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 英語資格・検定試験 + グローバル英語入試志望理由書に基づく「英語面接」 + 出願書類	読解・表現力試験 + 面接	出願書類 + 日本留学試験

※1. 各学科が大学入学共通テストにおいて課す教科・科目、個別学力試験の科目、配点等については、入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
 ※2. へるん入試、一般型の第1次選考は、志願者数が募集人員の概ね3倍を超えた場合に実施することがあります。

■3年次編入学

学 科 名	募 集 人 員	入 試 方 法
生 命 学 科 科	合 計 15名	面 接 及 び 口 頭 試 問
農 林 生 産 学 科		
環 境 共 生 学 科 科		

※2025年6月14日に出に実施しました。

入試情報に関する問い合わせ先

●入学者選抜要項等の請求先

島根大学入試課
TEL 0852-32-6073

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 FAX0852-32-9726
 [E-mail] epd-nnyushi@office.shimane-u.ac.jp

学部・学科の
案内動画を
掲載しています!



[学部HP]

●入試情報の提供

<https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>



島大 入試

2025年
8月6日(水)
**オープンキャンパス
 実施!**
 詳細はホームページをご覧ください!

■令和7年度入試 実施状況

学 部	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	追 加 合 格 者	入 学 者	入 学 者 内 訳 (%)						
								男	女	県 内	県 外	現 役	既 卒	其 他
生 物 資 源 学 科 部	前	101	190	178	109	1	118	58.2	41.8	16.4	83.6	86.6	13.4	0.0
	後	19	236	63	23									
	総 I	80	126	124	83	0	83							
	帰 国	若干名	1	1	1	0	0							
	私 費	若干名	8	8	3	0	2							
計	200	561	374	219	1	203	—	—	—	—	—	—	—	

注. 「前」…前期日程、「後」…後期日程、「総 I」…総合型選抜 I「へるん入試」(共通テストを課さない)、「帰国」…帰国生選抜、「私費」…私費外国人留学生選抜

■一般入試

学 部	学 科	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	追 加 合 格 者	入 学 者
生 物 資 源 学 科 部	生 命 学 科 科	前	37	68 (44)	65 (43)	41 (27)	1 (0)	41 (25)
		後	5	49 (26)	12 (6)	7 (3)		
	農 林 生 産 学 科	前	31	59 (29)	57 (28)	32 (15)	0 (0)	34 (14)
		後	5	78 (31)	18 (6)	5 (1)		
	環 境 共 生 学 科 科	前	33	63 (21)	56 (16)	36 (11)	0 (0)	43 (15)
		後	9	109 (49)	33 (17)	11 (6)		
計			120	426 (200)	241 (116)	132 (63)	1 (0)	118 (54)

注. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

■総合型選抜 I「へるん入試」

学 部	学 科	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生 物 資 源 学 科 部	生 命 学 科 科	一般	22	40[12] (14[6])	39[12] (14[6])	22[0] (7[0])	22[0] (7[0])
		農 林 生 産 学 科	一般	15	9[20] (7[10])	9[20] (7[10])	8[7] (6[2])
	環 境 共 生 学 科 科	専門	5	10 (5)	10 (5)	6 (4)	6 (4)
		一般	16	27[16] (5[3])	26[16] (5[3])	15[2] (2[0])	15[2] (2[0])
	全 学 科	山陰	7	9 (3)	9 (3)	8 (2)	8 (2)
	全 学 科	全国	9	16 (8)	16 (8)	9 (4)	9 (4)
	全 学 科	英語	3	8 (2)	8 (2)	3 (1)	3 (1)
全 学 科	英語	3	7 (3)	7 (3)	3 (2)	3 (2)	
計			80	126[48] (47[19])	124[48] (47[19])	74[9] (28[2])	74[9] (28[2])

注1. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

注2. []内はへるん入試特定型出願者のうち一般型併願者の数を示し、それぞれ外数である。

注3. 「一般」…一般型、「専門」…特定型 専門高校入試、「山陰」…特定型 地域志向入試(島根県・鳥取県枠)、「全国」…特定型 地域志向入試(全国枠)、「英語」…特定型 グローバル英語入試

■帰国生選抜

学 部	学 科	区 分	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生 物 資 源 学 科 部	生 命 学 科 科	—	若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
	農 林 生 産 学 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	環 境 共 生 学 科 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計			—	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)

注. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

就職への強力な支援体制

職種に応じた就職セミナーや面接指導、資格取得プログラムの実施

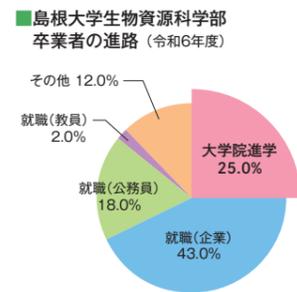
大学教育センター（キャリア担当）が企画するキャリア・就職ガイダンスや面接練習などの実践指導に加え、在学生の保護者で組織される後援会の支援を受けて、環境庁や企業、就職コンサルタントから講師を招いた学部、学科独自の就職セミナーを実施しています。このセミナーの講師には本学部の卒業生も多く、個々の学生の希望や適性に合った親身な指導を行っています。また、教員免許や学芸員など、各種の資格を得るための教育プログラムも充実しています。また、各学科に就職担当の教員を配置し、求人情報の提供や就職活動に対するアドバイスなどをいつでも受けられるようきめ細やかな指導を行っています。



- 【学部卒業後の主な就職先・進学先】（令和6年度）
- 生命工学科(生命工学科含む)
 - 【企業】 帝國製菓株式会社、株式会社栗山米菓、JA全農青果センター株式会社、株式会社マイナビ、九鬼産業株式会社、シノプフーズ株式会社、株式会社コスモス薬品、WDB株式会社、アドバンテック株式会社、アドソル日進株式会社、株式会社サンキ、株式会社御池鐵工所、株式会社イシグロ、株式会社ハローズ、島根トヨベツ株式会社、など
 - 【公務員】 財務省広島国税局、島根県職員、鳥取市職員、松江市職員、岡山市職員
 - 【教員】 鳥取県公立学校、岡山県公立学校
 - 【進学先】 島根大学大学院、九州大学大学院、東京工業大学大学院、お茶の水女子大学、など
 - 農林生産学科
 - 【企業】 株式会社村田製作所、株式会社宗家源吉兆庵、オタフクソース株式会社、伊那食品工業株式会社、国分グループ本社株式会社、株式会社あわしま、株式会社福井牧場、タローファーム株式会社、シセイ・アグリ株式会社、中本造林株式会社、株式会社さんれいフーズ、弓ヶ浜水産株式会社、長崎西彼農業協同組合、沖縄県農業協同組合、株式会社富士薬品、など
 - 【公務員】 国家公務員（一般職）、防衛省（自衛官・自衛隊一般職等）、国土交通省中国地方整備局、石川県職員（農業専門職員）、島根県職員、鳥取県職員、広島県職員、山口県職員、熊本県職員、姫路市職員、福井県職員、別府市職員
 - 【進学先】 島根大学大学院、神戸大学大学院
 - 環境共生科学科(地域環境科学科含む)
 - 【企業】 大成建設株式会社、クボタ環境エンジニアリング株式会社、カネコ種苗株式会社、株式会社ゼンショーホールディングス、敷島製パン株式会社、株式会社関電エネルギーソリューション、宇都マテリアルズ株式会社、NTTアノードエナジー株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社、株式会社フジタ建設コンサルタント、株式会社薬水キャニコム、石原産業株式会社、島根電工株式会社、横浜農業協同組合、伊万里市農業協同組合、など
 - 【公務員】 農林水産省（神戸植物防疫所）、国土交通省中部地方整備局、島根県警察、島根県職員、鳥取県職員、山口県職員、兵庫県職員、千葉県職員、長崎県職員、出雲市職員、米子市職員、広島市職員、大阪市職員、横浜市職員、津市職員
 - 【教員】 島根県公立学校
 - 【進学先】 島根大学大学院、京都大学大学院、九州大学大学院、名古屋大学大学院、熊本大学大学院

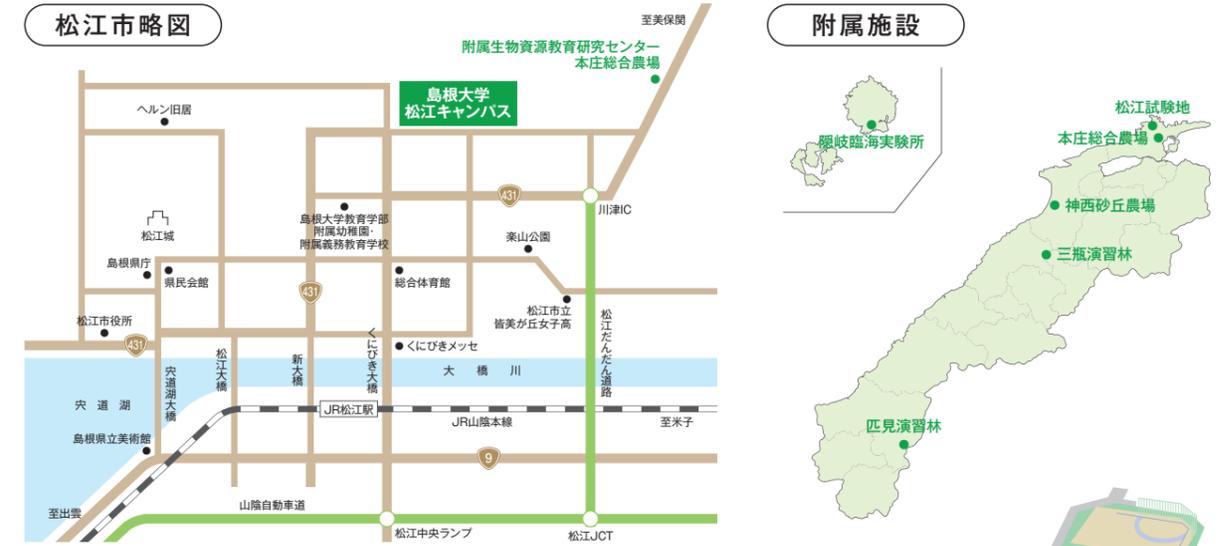
大学院進学を応援

生物資源科学部で学んだ後は、より高度な研究に取り組み、高い技術と専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院で学ぶことにより、さらに学問の深みを知り、学会発表や論文作成を通して、自身の研究成果を発信する機会が得られ、自分の能力を大きく磨くことができます。希望者は、大学院の授業を学部生の時に聴講することができ、大学院で研究に集中できる時間が作れ、早めの就職活動が可能になります。大学院生は学生指導をするティーチングアシスタントや研究補助をするリサーチアシスタントの業務をすることで収入を得ることができます。大学院を修了した後はより専門的な職種に就くことができます。



- 【大学院修了後の主な就職先】（令和6年度から過去3年間）
- 生資関連コース(環境共生科学科コース、生命科学コース、農林生産学コース)
 - 【企業】 ▶研究職/株式会社伊藤園、エスピー食品株式会社、タイガー魔法瓶株式会社、いなば食品株式会社、六甲バター株式会社、アラハタ株式会社、タマノイ株式会社、株式会社メニコ、株式会社クラレ、大塚食品株式会社、エア・ウォーター株式会社、株式会社新日本科学、オルガノ株式会社、wking株式会社、わらべや日洋ホールディングス株式会社、湧永製菓株式会社、日本臓器製薬株式会社、株式会社林原、株式会社デュオ、株式会社フソウ、カネコ種苗株式会社、丸善製薬株式会社、日新ホールディングス株式会社、月島JFEアクアソリューション株式会社、備前化成株式会社、株式会社サンブラネット、日本コーンスターチ株式会社、一般財団法人残留農薬研究所、薩摩酒造、など
 - ▶技術職/武田薬品工業株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社ヤクルト本社、大成建設株式会社、味の素AGF株式会社、オルガノ株式会社、wking株式会社、株式会社フソウ、アース環境サービス株式会社、株式会社ジェイ・オー・ファーマ、扶桑薬品工業株式会社、株式会社三洋化学研究所、株式会社ツチヨシ産業、日研フード株式会社、株式会社創味食品、ヤスハラケミカル株式会社、株式会社エコテック、アサヒコンサルタント株式会社、島建コンサルタント株式会社、株式会社さんれいフーズ
 - ▶営業職・その他/ローソン、山崎製パン株式会社、大塚製薬株式会社、ウシオ株式会社、株式会社船井総合研究所、株式会社林原、三菱重工冷熱株式会社、株式会社山陰合同銀行、株式会社山陰中央新報社、鳥取サイエンス株式会社、医療法人ミオ・ファミリークリニック、公益財団法人島根県環境保健公社、など
 - 【公務員】 ▶研究職/島根県職員
 - ▶技術職/農林水産省、国土交通省、国土交通省中国地方整備局、国土交通省中部地方整備局、大阪府庁学職、島根県職員、岡山県職員、広島県職員、京都府職員、和歌山県職員
 - ▶その他/島根県職員、東京都職員I類B
 - 【教員】 島根県公立学校、兵庫県公立学校、三重県公立学校
 - 【進学先】 島根大学大学院(博士後期課程)、鳥取大学大学院(博士課程)、東京大学大学院(博士課程)、ユタ大学(博士後期課程):アメリカ

水の都・松江にある島根大学松江キャンパスはJR松江駅からバスで約20分



大学構内図(松江キャンパス)

- ①生物資源科学部1号館
- ②生物資源科学部2号館
- ③生物資源科学部3号館
- ④教養講義室棟
- ⑤附属図書館
- ⑥学生センター
- ⑦学生支援センター
- ⑧保健管理センター
- ⑨学生食堂
- ⑩学生会館(生協)
- ⑪総合情報処理センター
- ⑫法文学部棟
- ⑬教育学部棟
- ⑭人間科学部棟
- ⑮総合理工学部1号館
- ⑯総合理工学部2号館
- ⑰総合理工学部3号館
- ⑱次世代たたら協創センター
- ⑲本部棟
- ⑳学生市民交流ハウス
- ㉑材料エネルギー学部棟
- ㉒産学協創インキュベーションセンター



周辺おすすめスポット



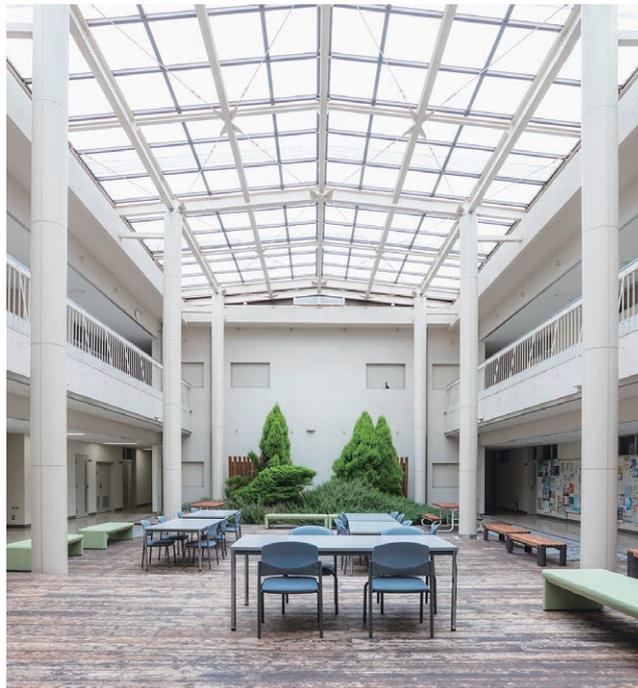
松江城
松江のシンボルで、屋根が千鳥が羽根を広げたように見えることから、「千鳥城」とも呼ばれます。平成27年7月、国宝に指定されました。



八重垣神社
八岐大蛇を退治した素戔嗚尊と稲田姫が新居を構えた場所であることから、「縁結び」の神社として知られています。「鏡の池」では縁の運速を占うコイン占いができます。



島根県立美術館
穴道湖畔に建つ“水との調和”をテーマにした美術館です。水をテーマにした国内外の絵画を収集展示しているほか、島根ゆかりの作家の作品などを展示しています。



島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL0852-32-6493 FAX0852-32-6125

<https://www.life.shimane-u.ac.jp/>

